

病院統合再編

作業部会による調整作業が続いています

●お問い合わせ／市企画調整課企画調整係 ☎26-5704

4月下旬から、市立酒田病院と県立日本海病院の両病院の職員で構成される病院統合再編ワーキンググループ（作業部会）による統合再編の検討・協議が続いています。

ワーキンググループは、各診療科や看護、薬剤、臨床検査、放射線、リハビリテーション、療食、事務部門など13ワーキンググループ・34分野にわたり両病院の現状、統合に向けて検討事項の洗い出し、整備基本構想に基づいた課題等の取りまとめを行っています。

主なワーキンググループの検討事項は次のとおりです。

①両病院の医療機能、診療体制

- ②各診療科ごとの病床数の調整
 - ③必要な医師、看護師等職員数
 - ④外来ユニット（診療窓口）の数および配置
 - ⑤医療機器等の配置
 - ⑥各分野の業務内容、業務手順の統一化・標準化
 - ⑦移行期の体制 など
- ワーキンググループで出された主な意見は次のとおりです。

【診療体制・医療機能】

- 救急救命センター設置にあたり、当直体制や宿直等勤務体制を見直し、医師、看護師だけでなく、薬剤師、放射線技師等の勤務体制についても検討が必要
- 緩和ケアや人間ドックは、機能がそろっている日本海病院側に置いた方がよい
- 酒田病院側の回復期リハビリテーションには、リハビリの専門医を配置する必要がある
- 多くの妊婦さんを医師のみで診ることはマンパワー（労働力）の面で限界があり、助産師外来も検討が必要
- 移行期は、患者さんに混乱がな



いよう、病棟単位や診療科単位での移行とした方がよい

- 救急患者が集中しないように、地区医師会との連携をどのようにしていくか検討が必要

【業務の統一化】

- 電子カルテは酒田病院にも必要
- 薬剤や診療材料等の契約は、より効率が図られるよう統一した方がよい

【地域医療】

- 福祉との連携、在宅等へ向けていく部門、地域医療室は両病院とも必要
- 病院完結型でなく地域完結型とし、開業医や他の病院、福祉施設等との連携体制の構築が必要
- 円滑な退院調整には、リハビリテーション関連職種等による定期的な打ち合わせ会の開催、地域医療室との連携が必要不可欠。また、保健師・介護支援専門員も含めた調整会議の開催が定期的に必要な

【職場環境の整備】

- 新しい病院では、提言のあった24時間保育所など、職員が働きやすい環境を考えて整備すべき

新病院名の募集に多数の応募をいただきました

統合病院の新病院名を募集したところ、約220通を超える応募をいただきました。

新病院名は、運営委員の意見を集約して、県知事と市長により決定されます。その後、9月議会で地方独立行政法人の定款の議決事項として提案され、議決後、総務大臣の認可を得て、正式に決定されます。

◆ご意見は、市企画調整課企画調整係へ ☎26-5704 FAX 26-6914 Eメール / kikaku@city.sakata.lg.jp